日本語日本文学科 カリキュラム・マップ 2 — 科目への展開

ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP)の対応の詳細は別紙を参照のこと。

JDP1 日本語学・日本古典文学・日本近代文学の豊かな教養と専門的知識を修得している

JDP2 日本語・日本文学を踏まえた思考力・表現力を備えている

JDP3 自国の文化を深く理解している

教育方法

- 講義
- 演習
- 語学
- その他

JCP1 主体的調査・考察・発表・対話・討論中心の演習の設置

JCP2 専門知識・技能の修得を図る講義の設置

JCP3 3分野に必修科目と専門科目を設置

JCP9 グローバルな視点からの科目の設置

JCP10 日本語日本文学会などの活動と連携

	日本語学	日本古典文学	日本近代文学	関連分野
レベル4	卒業論文 研究法演習			
レベル3	日本語学演習1, 2 日本語学講義1-7	日本古典文学演習1-4 日本古典文学講義1-8	日本近代文学演習1, 2 日本近代文学講義1-8	くずし字解読演習1, 2 漢文学講義 比較文学1, 2 対照言語学1-4 書誌学
レベル2	日本語学演習3-5 日本語学基礎演習1, 2 日本語史 日本語学概論1, 2	日本古典文学演習4-6 日本古典文学基礎演習1-4 源氏物語講読1, 2 日本古典文学概論1, 2	日本近代文学演習1-6 日本近代文学基礎演習1, 2 日本近代文学概論1, 2	パソコン日本語・日本文学 日本語表現法1, 2 書道
レベル1	日本語学特別演習1-5 日本語学教養演習1, 2 日本語文法1, 2 日本語学入門・基礎	日本文学教養演習1-4 漢文学基礎演習 日本古典文学入門・基礎1, 2	日本近代文学入門・基礎	くずし字解読基礎演習 日本文学特別演習1, 2

JCP6 レベル4は必修の卒業論文を核とした総まとめ

JCP5 レベル3は演習中心

JCP4 レベル1, 2は基本的専門知識の修得中心

JCP8 古典演劇の鑑賞等、学外での学びの重視

JCP7 基礎的知識の充実を図る科目の設置

英語英文学科 カリキュラム・マップ2 — 科目への展開

ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP)の対応の詳細は別紙を参照のこと。

EDP1 英語の運用技能を修得している

EDP2 英語学と英語文学の専門的知識を持っている

EDP3 専門的知識・技能による広い視野と深い教養をもとに論理的に思考し判断できる

EDP4 多様な文化を理解し尊重できる

EDP5 国際社会に貢献できる

教育方法

- 講義
- 演習
- 語学
- その他

ECP3 英語運用技能の修得を図る技能科目の設置

ECP1 主体的調査・考察・発表・対話・討論中心の演習の設置

ECP2 英語学、英語文学の専門知識習得を図る講義の設置

ECP4 演習、講義、技能科目全てに必修と選択科目を設置

	英語技能	英語学	英語文学	関連分野
レベル4	卒業論文			
	研究法演習 II			
				翻訳演習 II
レベル3	研究法演習 I			
			イギリス文学演習1, 2	翻訳演習 I
		英語学演習1-4	アメリカ文学演習1, 2	英語教育学演習
	Communication Skills II	英語学概論 II	児童文学演習	英語圏文化I, II
		英語学特殊講義I, II	演劇演習	英語圏比較文化
			英米文学特殊講義I, II	異文化間コミュニケーションI, II
レベル2			英米文学基礎演習1-3	翻訳基礎演習1, 2
			児童文学基礎演習	英語教育学基礎演習
	Public Speaking	英語学基礎演習	演劇基礎演習	
	Communication Skills I	英語学概論I	アメリカ文学概論	英語特別演習I(海外語学研修)
	Communicative Grammar	英語史	イギリス文学概論	英語特別演習II(英検準1級・1級)
		日英対照言語学	児童文学概論	英語特別演習III(TOEFL ITP500点対策)
			演劇概論	英語特別演習IV(TOEFL iBT61点以上)
			イギリス文学史	英語特別演習V(e-learning)
				英語特別演習VI(TOEIC750点以上)
				英語特別演習VIIアカデミックライティング)
レベル1	発音クリニック1, 2			
	Presentation Workshop			
	Performance Workshop		児童文学入門	
	Listening Skills	英語音声学	アメリカ文学入門	異文化間コミュニケーション入門
	Reading Skills	英語学入門	イギリス文学入門	アメリカ文化入門

ECP6 レベル4で総仕上げの卒業論文／レポート

ECP7 技能科目は少人数・レベル別に編成

ECP8 アクティブ・ラーニングを導入し活用

ECP9 海外語学研修のカリキュラムへの取り入れ

ECP5 レベル1, 2に基本的英語運用技能修得の科目を設置

スペイン語スペイン文学科 カリキュラム・マップ 2 — 科目への展開

ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP)の対応の詳細は別紙を参照のこと。

SDP1 スペイン語の基本技能（読む、書く、話す、聴く）を修得している

SDP2 スペイン語で書かれた文学を学修している

SDP3 専門的な知識・技能による広い視野と深い教養をもとに、論理的に思考し判断することができる

SDP4 多様な文化を理解し、それぞれの文化の個性を尊重できる

SDP5 国際社会に貢献できる。

教育方法

- 講義
- 演習
- 語学
- その他

SCP1 スペイン語の技能を修得する語学科目の設置

SCP2専門的知識・技能を修得する講義の設置

SCP3 調査・考察・発表、対話・討論中心の演習の設置

SCP4 必修科目と選択科目を置く

SCP8 卒業論文は特定の主題を掘り下げ

SCP7 レベル3、4ではゼミナールに所属し学ぶ

SCP6 レベル3, 4では高度な西語能力の修得

SCP5 レベル1, 2は、基本的文法事項と四技能の基礎的運用能力の修得を図る

SCP9 学外での学びの重視

SCP10 カリキュラム外の活動との連携

	語学	文学	文化	関連科目
レベル4	卒業論文 研究法演習			
レベル3	スペイン語総合I,II スペイン語演習1～6,9,10,15,16,19,20 ゼミナールII,VII スペイン語史 スペイン語学I,II	スペイン語演習11～14,17,18 ゼミナールIII,VI ラテンアメリカ文学史 スペイン語文学I,II スペイン学特別講義	スペイン語演習7,8 ゼミナールI,IV,V スペイン語圏文化I,II	
レベル2	スペイン語II-1 スペイン語II-2 スペイン語II-3	スペイン語II-4 スペイン語II-5 スペイン語II-6 スペイン文学史	スペイン語圏文化概論III,IV スペイン美術	日西対照言語学 スペイン語圏文化演習 スペイン語特別演習I,II,III
レベル1	スペイン語I-1 スペイン語I-2 スペイン語I-3	スペイン語I-4 スペイン語I-5 スペイン語I-6	スペイン語圏文化概論I スペイン語圏文化概論II スペイン史 ラテンアメリカ史	

文化史学科 カリキュラム・マップ 2 — 科目への展開

ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP)の対応の詳細は別紙を参照のこと。

CDP1 歴史・美術史・思想史・宗教史の四つの専門分野ならびに関連分野を学修し、いずれかの専門分野の専門的能力を備えている

CDP2 先入観や偏見にとらわれることなく、広い視野から専門分野にかかわる諸問題に取り組み、批判的・自律的に考えることができる

CDP3 異文化や他者を理解し、よりよい世界の構築に寄与しようという意識をもって思索を重ねることができる

教育方法

- 講義
- 演習
- 語学
- その他

CCP1 歴史・美術史・思想史・宗教史の四専門分野、ヨーロッパ・アジア・日本の諸地域にわたる科目の設置

CCP2 演習、講義、文献講読科目を置き前2者を柱とする

CCP3 調査・読解・思索・発表・質疑応答・レポート作成等の主体的学習による演習

CCP4 知識や思考法の体系的修得を行う講義

CCP5 文献・史料の読解能力を育てる文献購読

CCP9 ICTの活用、実地学習の重視

CCP10 多面的な評価

CCP7 レベル4では卒業論文を核とした総仕上げ

CCP6 レベル1-3では演習・講義・文献I講読を必修

CCP8 文化史特別演習を置く

	歴史学	美術史学	哲学・思想史学	宗教学・宗教史学	関連分野
レベル4	卒業論文				
	研究法演習				
レベル3	西洋文化史演習I,II 日本文化史演習I,II,III,IV 東アジア文化史演習	西洋美術史演習I,II 日本美術史演習 東洋美術史演習	西洋思想史演習I,II 国際関係思想演習	聖書学演習 宗教史演習	考古学 民族学 政治学原論 社会学原論 工芸史
	西洋文化史特殊講義I,II,III 日本文化史特殊講義I,II,III,IV 東アジア文化史特殊講義I,II 西アジア文化史特殊講義	西洋美術史特殊講義I,II,III 日本美術史特殊講義I,II 東洋美術史特殊講義I,II	西洋思想史特殊講義I,II 国際関係思想特殊講義	聖書学特殊講義 キリスト教学特殊講義 宗教史特殊講義	
レベル2	文化史入門演習（歴史・西洋史） 文化史入門演習（歴史・日本史） 文化史入門演習（歴史・東洋史） 史学概論	文化史入門演習（美術） 美術概論 キリスト教美術	文化史入門演習（思想・哲学） 文化史入門演習（思想・国際関係） 哲学概論 東洋思想史 日本思想史	文化史入門演習（宗教） 宗教学概論 日本宗教史	古文書学
	英文文献講読、漢文文献講読				
レベル1	文化史学序説				
	基礎演習				
	西洋史概説 日本史概説 東洋史概説		西洋思想史 仏教思想史	西洋キリスト教史 日本キリスト教史 聖書学	キリスト教音楽 イスラム文化史 日本文化史 人文・自然地理学 地誌
	文化史学特別演習				

地球市民学科 カリキュラム・マップ 2 — 科目への展開

ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP)の対応の詳細は別紙を参照のこと。

教育方法
- 講義
- 演習
- 語学
- その他

GDP1 主体性・責任感・協調性を修得している

GDP2 判断・批判・対話・創造・実践の各能力を修得している

GDP3 地球社会の諸問題を人類の共生という視点を理解し、解決していくことができる国の文化を深く理解している

GDP4 英語等外国語運用能力を修得している

GCP1 GLSH、GLGC、GLFWの3領域を設定

GCP2 学びの基礎となるGLRMを設置

GCP4 GLSHはレベル1, 2, 3, 4に基礎、応用、英語版を設置

GCP5 GLGCは各分野をレベル1から4まで修得

GCP6 GLFWでは現場と大学との循環型学習

GCP3 GLSH、GLGC、GLFWはいずれも必修選択

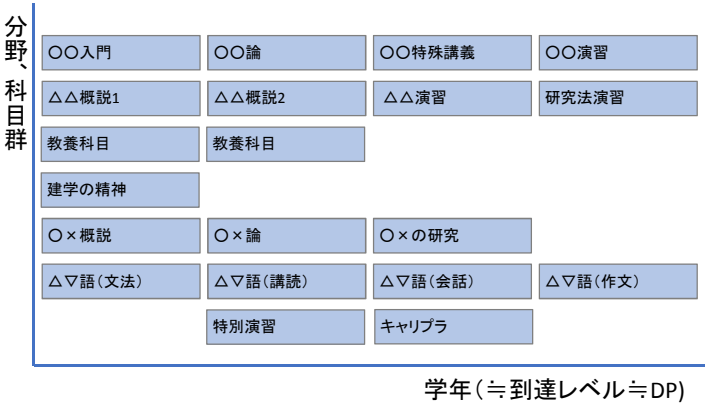
GCP7 レベル4で卒業報告書作成とプレゼンテーション

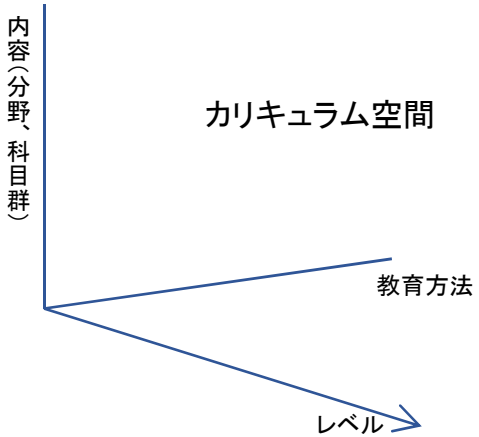
GCP8 民族・文化・宗教的背景が異なる講師等の招聘

GCP9 カリキュラム外の諸活動との連携

	GLRM	GLSH	GLGC	GLFW
レベル4	卒業論文 卒業プレゼンテーション 地球市民学研究法II	Global Citizen and Culture Global Citizen and Environment Global Citizen and Politics Global Citizen and Business Global Citizen and Education Global Citizen and Development Global Citizen and Society Global Citizen and Ethics Global Citizen and Law	Constructive Controversy Understanding Conflict and Peace Negotiation and Dialogue 通訳 英語特別演習II 外国語特別演習 諸言語特別演習I～III	フィールドワーク4-1 フィールドワーク4-2 フィールドワーク4-3 フィールドワーク4-4
レベル3	地球市民学研究法I	専門事例 地球市民と文化 地球市民と環境 地球市民と政治 地球市民と企業 地球市民と教育 地球市民と開発 地球市民と社会 地球市民と倫理 地球市民と法	ビジネス翻訳 Newspaper Reading Cross-cultural Communication Theater for Global Citizens 情報処理II	フィールドワーク3-1 フィールドワーク3-2 フィールドワーク3-3
レベル2	基礎演習II 地球社会入門II	地域研究I（日本・アジア） 地域研究II（東南アジア） 地域研究III（Japanese Culture） 地域研究IV（中南米）	Global Issues Current Events Stories for Peacebuilding FLSP プレゼンテーション技法 情報処理I-2 英語特別演習I-1,I-2	フィールドワーク2-1 フィールドワーク2-2 フィールドワーク2-3
レベル1	チュートリアル 基礎演習I 地球社会入門I	地球市民と文化 地球市民と経済 地球市民と宗教 地球市民と社会 地球市民と政治 地球市民と歴史 地球市民と自然 地球市民と法	コミュニケーションのための英文法 First-year English World Englishes Introduction Japan in English 日本語コミュニケーション 多文化理解トレーニング 情報処理I-1 TOEFL	

カリキュラムマップ1





カリキュラムの基本図

- カリキュラムを編成する場合、ある専門分野の知識・技能の修得を目標として、入門・基礎科目から上級科目へと段階を追って配置することを考える。これはごく自然な発想。
- この場合、DPは、ある専門分野の知識・技能をある程度のレベルまで修得することと自然に想定されている。
- この場合、個別の科目の内容を考える前に、分野、教育方法等でサブカテゴリー化させる作業が先になると思われる。
- 専門的な知識・技能は、一次元的な数値に還元できないものを含んでいる、と考えられている（図には表されていない）。

カリキュラムマップの必要性

- 「基本図」では不十分とされるようになった。理由は、
  1. 大学がユニバーサル段階を迎え、基本図にある学科の専門性に包摂されない大学教育、DPが求められている。
  2. 大学がユニバーサル段階を迎え、学科の専門性の前提となる教育を含めたCPが求められている。
  3. 社会に大きな変化が生じ、従来の高等教育が育てた知識・技能等が役立たなくなってきている。
  4. その中で、人間の知識観、能力観に大きな見直しが生じている。
  5. 大学教育の質保証を図るために、DPとCPのつながりを考える必要がある。
  6. 教育方法をCPに含めて考える必要がある。

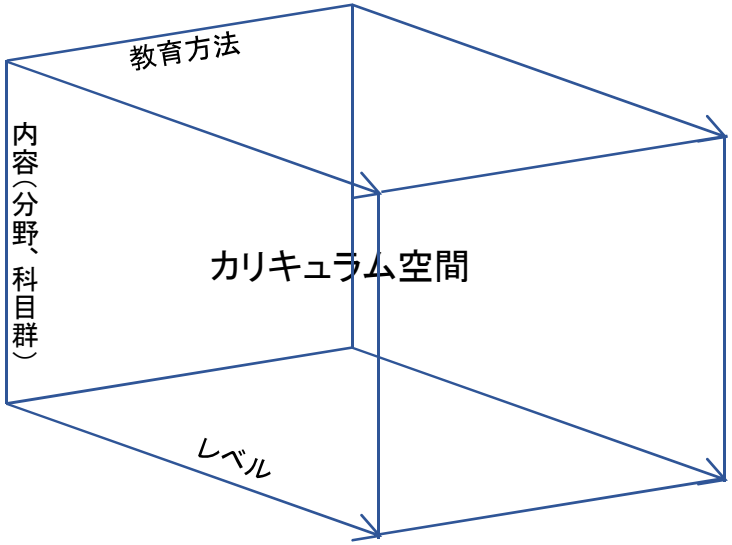
カリキュラムマップに対する要求

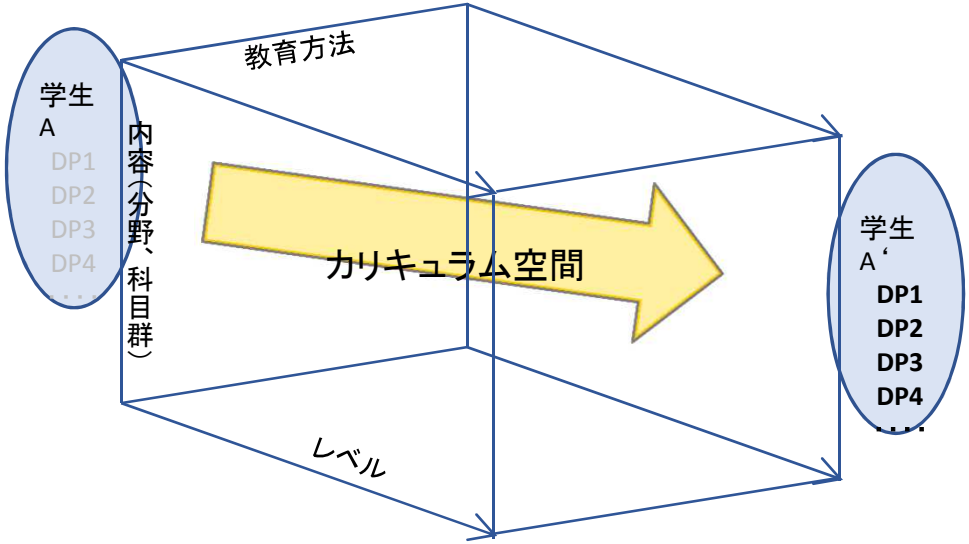
- その結果、以下のことがらに対応する図（カリキュラムマップ）が欲しくなった。
  1. さまざまなポリシーが含まれたカリキュラム全体を見渡すことができる。
  2. 学科の専門性に包摂されないDPとカリキュラムとの関連がわかる。
  3. 専門領域の知識、能力の修得だけでなく、新しい知識観、能力観に基づく知識、能力の修得が示されている。
  4. 教育方法を示す。

他大学の例

- これらを図に書き込むにはどうしたらよいか。基本図のような単純な2次元平面にこれらを書き込むのは無理にもかかわらず、以下のような対応をしている場合が多い。
  1. マップと別に、DPの各項目に対する各科目の寄与度を示す図を作成する（マトリックス）。
  2. 従来の図の周辺に、DPやCPの文言を書き並べ、2次元に収める。
  3. DPの各項目は学年（レベル）と近いので、学年（レベル）軸方向にDPを示す。
  4. 関西国際大学は、（文章で）教育内容、教育方法、アセスメントに分けてカリキュラムを示している。
  5. 科目ごとではなく、分野、科目群でくくって示す。

カリキュラムマップ2





- 科目は、内容、方法、レベルで指定し、この3次元空間内にプロットできる（カリキュラムマップ）。
- この空間内を4年という時間をかけてどのように移動するか（履修系統図、履修モデル）。履修系統図の時間軸は、カリキュラム空間のレベル次元と（同一プログラム内では）ほぼ一致していると想定される。
- この空間内を4年間移動した結果として、どこにたどり着くか、その範囲を指定するのがディプロマ・ポリシー。また、その結果に至ることができる初期値の範囲を示すのがアドミッション・ポリシー。
- 質保証とは、AP（初期値）を満たしている学生が、このカリキュラム空間を規定に則して4年間移動した結果、DPを満たすことを保証すること。
- 注意しなければならないのは、初期値と結果はカリキュラム空間にプロットできないということである。カリキュラム空間は科目が配置される空間であり、一方、初期値や結果は、この空間を移動する個々の学生が持つ、能力・技能などの特性である。学生の特性は、カリキュラム空間内を移動するのに応じて変化し、両者には何らかの（それなりに密接な）対応関係が存在すると思われるが、しかし、両者は別のものである。
- たとえば、私たちがさまざまなレストランがある都市を、食べたいものを食べながら何日もかけて旅行しているとしよう。私たちの持つ特性である体重や血糖値は何を食べたかに関連して変化し続けるが、しかし、体重や血糖値は都市のどこにも存在しない。
- これと同じことで、DPが示す学生の特性は、カリキュラム空間内には存在しない。両者には、それなりに密接な、場合によっては1対1に近い対応が存在するかもしれないが、しかし、前者がすべて後者に還元できるとは思われない。
- このように考えると、カリキュラムマップとDPの対応図は描かないほうがよい。少なくとも、安易に一枚の図中に描こうとはしないほうがよい。
- マトリックスは、カリキュラム空間とDPが別の存在であることを前提として、両者を何らかの変換を用いて対応させた結果を（ちょうど因子分析による因子負荷量のように）示したものと考えると理解しやすい。しかし、もしそうであれば、通常行われているような、各科目の各DPに対する比重・割合を授業担当者などの判断に基づいて定めていくのは、因子分析を行う前に因子負荷量を定めていくようなもので、あまり適切とは言えないように思われる（何らかの妥当性はあると思われるが）。マトリックス作成は、その目的を十分に考えた上で行うべきである。
- 要点
  1. カリキュラムマップ（ツリー）の図にDPを無理に入れないこと。
  2. カリキュラムマップ（ツリー）の図のレベル次元はDP方向と一致させないでよい。
  3. CPを記述する際に、内容、教育方法、レベルの3次元があることを示すこと。
  4. 学部のDP, CPと学科のDP, CPを、カリキュラム空間で整合的に示すこと。
  5. DPが達成できているか否かは、アセスメントによって確認する必要がある。
  6. マトリックスを作成する場合、マトリックスに示された与度の妥当性自体を検証する必要がある。